

現代経営学演習

原 拓志

I. 目標

この演習では、少人数のインタラクティブなゼミナール活動を通して、受講者それぞれが持ち込む業務に関わる研究課題について主体的な研究調査活動を実施し、その進捗報告に対して相互に意見交換を行い、最終的に各自の研究成果を専門職学位論文にまとめることを目指します。社会科学研究としての一定の手続きを踏まえつつ、業務関連問題に対して日常的水準を超えた次元での調査、分析、考察を実施し、問題解決と実業人としての成長に貢献することが狙いです。学位論文は、論理的・説得的なもので、所属する組織の経営陣などの読者にもインパクトを与えることを望みます。なお、指導教員の専攻分野は技術経営やイノベーションです。それを踏まえたテーマ設定を薦めます。

II. スケジュール

1年次は演習の時間があまり取られていませんので、演習の時間は、各自の報告と質疑応答、意見交換に費やし、それ以外は、電子メール（メーリングリスト）を使って研究の進捗管理と意見交換などを行いたいと思います（ゼミの有無に関わらず月1回の報告は必須）。

おおまかなスケジュールとしては、2017年内にしっかりとテーマを定めて、関連する研究を勉強し、2018年に入ったら、具体的データをとってもらい、5月ぐらいには草稿が姿を現し、6月には第1回草稿を完成させるぐらいのスピード感で取り組んでもらいたいと思います。もちろん、上記は、モデルケースであって、研究テーマや調査対象によって多少柔軟に考えて構いませんし、早くからデータを取れるもの、データを取るのに時間のかかるものは、上記よりも早めに取り掛かるべきでしょう。もちろん、拙速になってはいけないので、あくまでも内容を伴いつつの進捗でお願いしたいと思います。

2018年7月ぐらいには、合宿をして最終調整をとことんできたらと思っています。

2017年度のゼミの日程は下記の通りとなっています。

① 8月5日（土）

初回ということで自己紹介とゼミの進め方などについての話をした後、各自がゼミで取り組みたいと思うテーマについて、その背景にある問題意識や研究目的、現段階での仮説や予想結果、研究スケジュールなども併せて報告してください。初回は、それをA4数頁程度のレジュメ（自分用以外でコピー17部必要）を用意して、10分～15分ぐらいで説明してください。各自の説明のあと10分ぐらいの議論をしたいと思います。必要

な場合にはパワーポイントも使えるようにしますが（Windows PCは用意します）、基本、レジュメで説明してください。終わった後に懇親会をしたいと思います。

② 9月23日（土）

この日は午後から1年上の研究成果のポスターセッションがあります。演習は午前中だけとなります。各自進捗を5分程度で報告してもらい（前回同様レジュメ用意のこと、頁数は1枚でも可）、5分程度議論しましょう。ポスターセッションでは、研究の構成や調査方法、分析方法などを前例から学んでください。玉石混交だと思いますので、常に批判精神をもって、見習うべきは見習い、問題点があると思う部分はどうすれば良くなったかを考えて、各自の研究の参考にしてください。

③ 12月23日（土・祝）

この日は終日、進捗報告とそれに対する議論をします。初回同様で、一人報告時間10～15分、質疑討論も同じぐらいの時間をかけます。この日の報告では、テーマに対する初期調査の結果（先行研究、関連データの紹介など）と今後の計画を必ず入れてください。また、他のゼミ生の報告をよく聞き、建設的な意見や情報提供をするように心掛けてください。レジュメの用意は初回同様をお願いします。パワーポイントも必要な方は使ってもらって結構です。できたら、終わった後に忘年会をしたいですね。

Ⅲ. 論文構成や報告スタイル

特に決まったスタイルはないですが、論文では最終的に、テーマとその背後にある問題意識、注目する問題の特定とその分析や解決に向けての質的あるいは量的な関係情報の収集、その多面的な分析、そこから得られた結論（問題解決案ないしそれに向けてのアクション提案を含む）が明確な論理と説得的なエビデンスを伴って述べられることが大切だと考えます。

何かを論じるときに、なぜそういえるのか、話の筋は通っているのか、裏付ける証拠はどれぐらいあるのか、他のストーリーは成り立たないのか、反証となるような情報はないのか、それを乗り越えるための成立条件には何があるのかなどを、徹底的に確かめたり考えたりしていくことになります。

ゼミでの報告に対しては、指導教員及び他のゼミ生に加え、協力教員やティーチングアシスタントも議論に参加して、自分だけでは気づかない改善点を見出すのに協力します。

Ⅳ. ゼミ生に求めること

受講者には、自己の研究に真摯に取り組むことはもちろん、他の受講生の研究にも有益なコメントや調査協力をすることを求めます。

以上